

過去を修復する／呵責を呼び覚ます／現在に目覚める

(複数の日のミーティングの記録より抜粋)

「呵責」 (Remorse)

みずからの本性を思い出し、みずからの創造の源泉を振り返りつつ、みずからの現在のありかたをそれに対比して吟味するときに体験されるもの。「呵責」と訳しているが、「後悔」または「振り返る」というニュアンスも強く、「郷愁」とさえ言うことができる。自責に始まって「回帰への衝動」に至るまでのさまざまな色合いを帯びた感情を指す。グルジェフはこれを自己の存在の意味を知るために必須の高次の感情として語っている。

Q——「過去を修復する」とはどういう意味ですか。呵責によって清算するということですか。

グルジェフ——複雑に考えなくてもよい。これは単純なことだ。

現在は過去から生じる。過去において悪い習慣を身に付けてしまったのなら、いまそれをやめるということだ。[たとえばピアノの練習で] 私にはいつも同じふうに親指を動かす癖があるとす。それをただやめること。それを「修復」と呼んでいる。[言い換えるなら] 同じ間違いをくりかえさないようにすること、未来に向けて自分を備えることだ。ピアノを練習するときのように、ただくりかえし試みなさい。指の力をつけなければならない。何度も何度もくりかえしなさい。

Q——私は一日の多くの時間をとてもつまらない個人的な感情、とても陰悪な感情にとらわれた状態で過ごしています。私はこの状態を変えるのを課題にするべきでしょうか。それともほかにすべきことがあるでしょうか。

グルジェフ——だれもがそのような状態にある。だれもがずっとそのような状態にあり続けてきている。あなたの場合、いまはじめて、それを自覚するようになった。われわれはまさしくこの状態を変えたいのだ。[そのためには] 自分がするすべてのことをとてもよくするようにしなさい。食べることさえもだ。よく食べるなら、よく祈ることができる。自分がするすべてのことに自分を全面的に投入しなさい。

人はとても具体的な何かに取り組まなければならない。ワークは「欲しがり」の延長ではなく、ひとつのニーズ……とても切実なニーズになるべきだ。それが切実なニーズになってはじめて、あなたは答えを得る。欲しがっているだけなら、あなたには結果を得るための資格がない。それではふじゅうぶんなのだ。それでは何にもならない。

自分のなかに切実なニーズを作りなさい。そして何度も何度もくりかえしなさい。あなたがたは、じゅうぶんだけくりかえす前にやめてしまう。楽をして手に入れたものはチック [プチッ] とつぶしてしまうとよい。自分がそれなりの代償を支払わなければならない何か、努力を要する何かを求めなさい。楽に手に入れたものは、あなたの内的生命のためにはよくない。

そして意図を持つことだ。いつも具体的な意図を持ちなさい。いつも具体的な意図を持つことがあなたの目標だ。あなたはこれを達成しなければならない。この道にはたくさんジグザグがある。始めるのを遅らせてはならない。つねに意図を覚えていなさい。自分が行くべきところを覚えていられたなら、あなたはそこに行くための手段を見つける。

後になったら、私はあなたに別の目標を与えよう。まずはこの第一の目標を達成しなさい。自分の意図を明確にし、そしてつねにそれを覚えているということだ。

Q——自分の内側に呵責を呼び起こそうとすると、私の一部が抵抗します。こんなことをしても何にもならない、こんなことをして何のためになるのかと、その部分は私に言います。私をもっと理解を深め、この抵抗と闘えるよう、呵責というのは何の役に立つのか、呵責を感じるのはどうして大切なのかを教えてください。

グルジェフ——答えは単純だ。これを見なさい。(グルジェフは皿の上のみかんから一房を取り出す。)

これの運命はジャムになることだ。これはジャムにならなければならない。これはジャムになるために生まれてきた。しかしこのみかんは塩辛すぎる。それならどうしたらよい？ 洗ったり漬けたり清めたりして、塩を取り除かなければならない。そうしたらこれはジャムになれる。塩が混ざっている状態ではこれはジャムになれない。呵責とは塩を取り除くものだ。浄化のために必要なものだ。よろしいだろうか。

* * *

Q——[両親との関係を振り返るエクササイズで] みんなが話しているのと同じ質を帯びた感情を私も見いだしたのですが、それは私に大きな内的充実感と幸福感をもたらすので、私は呵責を感じられなくなります。私にはこの幸福感を味わう資格がないので、私はこの幸福感を不満に思います。

グルジェフ——あなたには空想癖がある。私は前々からこれについてあなたに言っている。あなたは芸術界の有名人だ。フォッフオー。あなたには重みがない。軽すぎる。思想と空想だけだ。

状態というのは[対立物の結合から生じる]産物だ。それに重みを与えるのはこれ[呵責]である。これは真の幸せとの釣り合いのために必要な重みであり、真の幸せと必ずいっしょにあるべきものだ。真の幸せは呵責があってこそ本物で、呵責は真の幸せがあってこそ本物だ。

あなたにはひとつの本質的な傾向があり、それは怠惰ゆえに生じたものだ。しかるべき土台としかるべき重みなしに「特別な精神状態」に入るというこの傾向にあなたは流されている。あなたはこの傾向を自分から取り除く必要がある。

いま言ったような満足を感じるたび、それを「チック」[プチッ]とやりなさい。それをつぶす、消してしまうのだ。そして呵責のワークをしなさい。自覚を取り戻し、自分が悪い子供だったころのこと、自分が両親を泣かせたときのことを思い出すとよい。すべてを細部に至るまで味わいなさい、自分がしてしまったことを思い出しなさい。過去を探りなさい。苦しみなさい。この苦しみのなか、あなたは真の愛から生じる真の幸せを得る。

* * *

マダムN——過去を修復しなければならない、それには良心の呵責が必要だと、あなたは何度も言われました。

私が自分の子供時代を振り返ると、悲惨なことばかり思い出されます。私はとても早くに両親をなくし、その後、ありとあらゆる不幸に見舞われました。私は呵責ではなく不平を感じます。自分を憐れむ人間、不平を言う人間、自分を正当化する人間……私が自分のなかに見いだすのはそんな人間です。この自己憐憫からどうしたら抜けられるか、自分はひどいめにあった、これは不当(unjust)であるという思いからどうしたら離れられるか、私は知りたいと思っています。

グルジェフ——Justice [正義／公正]というのは大きな言葉だ。それは宇宙で働く大きな何かだ。それを小さなことと結び付けないように。これは客観的なもの[小さな利害を超えたもの]だ。客観的なものであるゆえに、それは法則どおりの働きをする。

私がこう言ったのを思い出しなさい……自分がまいた種から育ったものは自分で刈り取る。この法則は個人の運命にだけ適用されるのではない。家族や国家も、過去の種から育ったものを刈り取らなければならない。

多くの場合、地球にいま起きていることの原因を作ったのは、われわれの父親または祖父である。彼らがしたことから生じた結果は、息子または孫としての、あなたのなかで合流する。それをどうにかしなければいけないのは、あなたである。

これは不当なことではない。それどころか、あなたにとっての大きな名誉だ。そこから生じる責任はあなたに自覚を求める。そしてこの仕組みのおかげで、あなたは自分の父親、祖父、曾祖父の過去を償うことができる。あなたが若いときに不運を味わったなら、かつてだれかがその種をまいたのだ。あなたはそれから育ったものを刈り取らざるをえない。種をまいた人間は死に、地球の別の人間がそれから育ったものを刈り取る。

自分自身というものを自己中心的な観点から見てはいけない。あなたは血脈の鎖の一つの輪だ。少なくとも自分のちっぽけな人生のことだけではなく、連綿【れんめん】と続くあなたの家系全体を利することを考えなさい。それを誇りに思いなさい。この鎖の一つの輪としてあることは、あなたの名誉だ。

過去を修復するうえでのあなたの責任が重いほど、あなたはそれだけ深く、良心の呵責を感じられる。あなたは、過去において、自分がすべきようにはしていなかったことのすべてを思い出すとよい。《正義》が命じることに対してあなたがしてきたそれらのことが、あなたのおじいさんが浮かばれるのを妨げている。それを自覚することで、あなたの良心の呵責は十倍になり、それと同じだけ、あなたの存在は価値あるものとなる。

これを自覚したならば、あなたはロバの尻尾ではない。あなたには責任がある。あなたには血がつながった人々がいる。現在と過去において、あなたと血がつながった人々全員の幸せは、あなたにかかっている。あなたと血がつながった人々全員の幸せは、あなたがどのように過去を修復するかにかかっている。あなたがみんなのために過去を修復するのはよいことだ。あなたがこれをしないなら、あなたのすることには価値がない。

《正義》について、少なくとも理論的にはわかっただろうか。《正義》は、あなたが抱えている小さな問題、取られたものを取り返したいとかいう問題には無関心だ。《正義》は大きなことに関わっている。神が小さなことまで面倒を見るべきだと思うのは愚かである。《正義》についても同様だ。

《正義》は小さなことにまったく関与しないが、それでも地球で起きることすべての大元には《正義》の働きがある。その理由を見つけようとしなさい。あなたは、あなたと血がつながった人々に対する責任を認めなければならない。過去を修復する仕事をもっとしなければならぬ。もっとも、以上のすべてをすぐに理解するのは無理だろうが。

* * *

R——マダム・ド・ザルツマンから教わったエクササイズをしていて、自分はけっしていまここにいないということがわかりました。いつも未来か過去に心を向けていて、け

っして現在にはいないのです。そのエクササイズを教わったとき、私は新しい味わいを
得て、いまここに在りたいという新しい願いが自分のなかに生まれました。「いまここ
に在る」という言葉は、私にとって、新しい意味を持つようになりました。

ですが、自分ひとりで試みても、同じ味わいを得られません。いまここに在りたいと
いう願望を強く感じられません。その味わいと、自分を思い起こすことへの願望を私が
回復できるよう、エクササイズを授けていただけませんか。

グルジェフ——すでに味わいは知っているのだね。

R——はい。「いまここに在る」という言葉の意味をはじめて実感しました。それまで
知らなかった感触です。

グルジェフ——いまの話との関係で私が強く思い出すのは、あるペルシャの哲学者が過
去・現在・未来について語った言葉だ。この言葉はペルシャのとある村のはずれに立つ
石碑に刻まれている。

「過去を修復し、未来を作るためのときとして現在はある」

こうした石碑というのはつまらないものに見えるが……ああ、それでもたいへんなも
のなのだ。この格言を理解するというのが、まさに君の必要としていることだ。現在を
使ってこそ、君は過去を修復し、未来を作ることができる。過去と未来は現在なしには
存在できない。現在を使って、過去のあらゆる過ちを正し、未来を作りなさい。未来を
作るというのは、君が心から望む新しい生き方を用意することだ。

現在の貴重さを感じることは、君にとってとても大事なことだ。現在を自分のものに
できるよう、そのために必要なあらゆることをしなさい。これはみんなにとって大事だ
が、特に君にとって大事なことだ。現在を自分のものとしなければならない。過去は過
去であり、もうけっして戻ってこない。未来は来るかもしれないが、どんな未来が来る
かは、現在のありようにかかっている。現在に生きられるようになるには練習が必要だ。
すべてを今日やりなさい。昨日と明日を忘れなさい。君は今日、昨日を修復し、明日が
君の望むような明日となるための可能性を作るのだ。

ちょっとしたエクササイズを教えてあげよう。自分が親しくしているだれか……仲間
か友人のひとりを選びなさい。相手に知らせてはならない。これは自分の内面生活のた
めにだけすることなのだから。

その人のことを考えなさい。その人のことを忘れずにいなさい。過去における彼と自
分との関係を振り返り、自分はこれまで彼に対してどんなふうにもふるまってきたかを見
つめなさい。以上は過去についてすることだ。そして現在すべきことがある。彼のほう
は、君とのつきあいで、過去と同じようなふるまいを見せるだろう。だが、君のほうで
は彼とのつきあいかたを変え、昨日までと同じようにはふるまわないようにしなさい。

たとえば、これまでは彼のふるまいに対して、まったく自動的な特定のふるまいをもって応えてきただろう。今日はそうしない……外面的に反応するのではなく内面的に関係を樹立しようとする。彼のほうは前と同じようにふるまうだろうが、君は彼に対する内的な姿勢を意識的に変えるのだ。これは自分が今日すべきことなのだという自覚をもって、過去における自分のふるまいかたを深く自省したうえで、彼との間に過去とは違った関係を樹立しようとしなさい。君が君自身のみじめな過去を清算する機会、過去の過ちを帳消しにする機会を彼は君に与えてくれている……そう自分に言い聞かせなさい。

これをしばらくやった後、自分の心のなかで、結果を検証しなさい。きっと彼のほうでも君との関係の持ちかたを変えただろう。彼自身も変わっただろう……彼自身は何のワークもしていない、特別なことなど何もしていないのにだ。彼が過去における君との関係を振り返るとき、彼は君に感謝したい気持ちになるだろう。自分は現在によって過去を修復したのだということを君は知り、そして未来において、彼は以前にも増して君を助けるだろう。君が彼を理解したことに彼も気づくからだ。このエクササイズでは、自分がほんとうに深い関係を結んでいるだれかを選びなさい。だが、家族の者を選んではいけない。

次にここに来るときに、このエクササイズで自分が観察したことを報告してほしい。そのときは、もっと大きな視点からこのテーマについて話してあげよう。いまは話さない。いま話してしまったら、「大きなことばかり考えていて小さなことは何もできない」という多くの人々に見られる傾向を君も身に付けてしまうかもしれないからだ。